

教育行政執行方針（要旨）

特色ある登別の教育を推進

技術革新やグローバル化の一層の進展に伴う産業構造や社会システムの変化、女性・高齢者などの活躍の進展に伴う就学・就業構造の変化などにより、社会は今後急速に変わっていくことが見込まれています。

こうした中、現在、中央教育審議会では、第3期教育振興基本計画の策定に関わる諮問を受け、十数年先の社会の変化を見据えた教育政策に関する基本的な方針や、今後5年間の教育政策の目指すべき方向性について、審議が進められています。

教育委員会としましては、これらの動向をしっかりと見極めながら、特色ある登別の教育を推進するため、登別市学校教育基本計画の見直しを図るとともに、市民一人ひとりが主体的に学び、地域社会の担い手として活躍できる生涯学習社会の実現を目指していきます。

地域とともにある学校づくり

これまで本市においては、コミュニティ

次期学習指導要領の移行期間に入りますので、改訂の趣旨や内容が適切に反映されるよう学校の取り組みを促していきます。

幼保・小・中連携

これまで登別市幼保・小・中連携協議会を中心に、情報交流や施設訪問などを通して、それぞれの教育活動への理解を深めてきましたが、さらなる連携の強化に向け、教職員の合同研修や、幼児と児童の交流を推進していきます。

今後は、地域全体の協働により子どもたちの成長を支える方向性が国から提言されていますので、これまでの取り組みを検証するとともに、協働体制の整備などについて検討を重ね、地域学校協働本部へと発展するよう進めていきます。



▲市内の各学校では、定期的に地域の方などとの会議が行われ、教育方針などを話し合っている

学校教育

これからの学校教育においては、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成が重要です。

本年度より、これらの理念をふまえた

確かな学力の向上

全国学力・学習状況調査の結果、『書くこと』に関する基礎的な事項や家庭学習の時間などで一定の成果が表れていますが、一方では知識・技能を活用する力やテレビ・ゲーム機など、さまざまなメディアとの接触時間などに課題がありますので、教育課程課題検討委員会を通して



▲幌別西小学校の児童と西陵中学校の生徒が合同で行ったあいさつ運動

全国学力・学習状況調査の結果、『書くこと』に関する基礎的な事項や家庭学習の時間などで一定の成果が表れていますが、一方では知識・技能を活用する力やテレビ・ゲーム機など、さまざまなメディアとの接触時間などに課題がありますので、教育課程課題検討委員会を通して

本年度より、これらの理念をふまえた

て、学習指導の工夫・改善を図っていきます。

また、チャレンジドリルの活用や放課後学習教室、長期休業中のサポート学習など、各学校の取り組みを支援していきます。



▲地域の方による放課後学習教室

英語教育

小学校での外国語科の導入に合わせ、登別市小中学校英語教育推進プログラムの見直しを図るとともに、外国語指導助手を活用し、子どもたちのコミュニケーション能力の育成や外国の文化・歴史への興味を高めることを通じて、国際理解教育を推進していきます。

また、小学校外国語巡回指導教員を活用し、小学校教員の指導力と英語力の向上を図り、英語教育の充実に努めます。



▲小学校の図書室開放日に外国語指導助手が行う英語による読み聞かせ